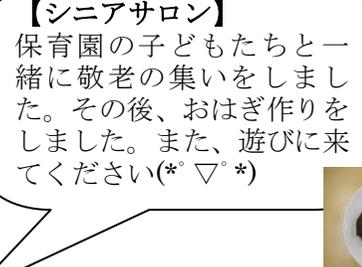


9月のなかよしの一む・なかよしミニ・なかよしミックスは、砂遊びを楽しみました。

【砂遊び】 お母さんと一緒に裸足になって砂遊びをしました。大きなお山に
よいしょよいしょと登ったり、川やトンネルを作ってもらって水を流したりして楽
しみました。自分でプリンやおだんごを作ることができて大喜びする姿も見られま
したよ(*^_^*)最後に、お母さんの所までよ〜いどん！かけっこをしました(*^^)v



【シニアサロン】
保育園の子どもたちと一緒に敬老の集いをしました。その後、おはぎ作りをしました。また、遊びに来てください(*^▽^*)



「シニアサロンぽぽら」に遊びにきませんか

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。

日時： 10月14日(水) 10時から12時

内容： 花の苗植えをしましょう

(保育園の3歳児との交流があります)

場所： 地域子育て支援センター「さんこうぽぽら」
電話でお申し込み下さい。 TEL 31-6877



♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。

お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。

事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

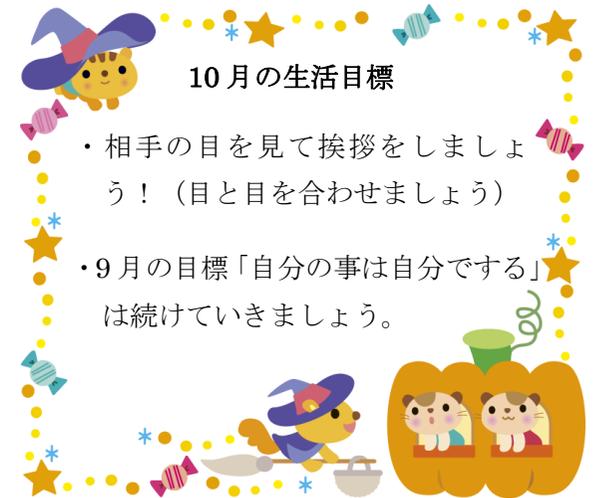


永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
2015年10月発行 第102号
認定こども園 西九州大学附属三光保育園
TEL:0952-31-6877

♪ 食欲の秋、読書の秋 ♪

最近の子どもたちは、運動会の練習を通して食欲が増してきました。朝食後、おやつも食べずに体をいっぱい使って運動した後は、少し苦手なものも口に入れて食べる位、食が進んでいます。給食に出てくるメニューや食材も秋のものが出回ってきましたね。日本は四季があり、その季節ごとの食材や献立にも特徴があります。秋の野菜や果物等、お店に並べられた食材に目を向けて子どもたちにお話をさせていただくといいですね。園庭には、稲穂、栗の実や柿、甘夏、キンカン等、子どもたちが収穫を楽しみにして、大きくなる様子を観察している姿が見られます。保育園児、幼稚園児共に冬野菜の栽培も始まっています。ぽぽらの活動にも芋ほりがありますよ。皆さん奮ってご参加ください。

一方、段々と日暮れが早くなり、家庭で過ごす時間が長くなります。子どもたちの大好きな絵本を膝の上や布団の中で一緒に楽しんでください。子どもたちの情緒の安定や、想像力を育て、心地よい時間になります。秋から冬に向かって、親子で読書を楽しめるといいですね。
(三光保育園長)



10月の生活目標

- ・相手の目を見て挨拶をしましょ
う！（目と目を合わせましょ）
- ・9月の目標「自分の事は自分でする」
は続けていきましょう。

「なかよしミックス」に遊びにきませんか！

就園前までのお子様と保護者の方が一緒に参加して親子で楽しく遊ぶ集いの場です。

★第7回目の10月は、下記の日程で実施します。

日時 10月20日(火)10:00～12:00

10月22日(木)10:00～12:00

内容： いもほりの体験 (対象：2歳以上)

場所： 佐賀市金立公民館駐車場

持って来るもの： 帽子、手袋(軍手)、シャベル、お茶、おやつ、着替えなど

※掘ったさつまいもは買い取れますので、小銭と袋を準備してください。

参加を希望の方は事前にお電話が必要です。受付は、9:30～17:00です



10月の「フリーデー」について

支援センターぽぽらを下記の日程で開放します。お好きな時間にお出かけ下さい。

日時： 10月16日(金)・10月19日(月) いずれも10:00～12:00

※事前の連絡は必要ありません

子育て便り

「ジェンダーの視点から PISA の学力テスト結果を考えると…」

西九州大学子ども学部子ども学科 教授 赤星まゆみ

今年、世界的な学力テスト、PISA(ピサ)が実施される年です。PISA とは、OECD (経済協力開発機構) 加盟国を中心として行われている国際学習到達度調査です。調査の結果は各国の教育政策の立案に生かされるように様々な角度から分析されます。最近の PISA 調査 (2012 年) に関わる報告を一つ紹介しましょう。

私たちは 20 世紀を通じて教育・雇用の領域におけるジェンダー不平等を小さくすることに成功しました。少なくとも教育における男女平等は実現したと多くの人は考えました。しかし、近年、教育における新たなジェンダーギャップ (男女の差) が生じていることがわかりました。男子に学力の低い者の割合が高く、仕事に必要な資格免状を取得しないで学校を出て行く傾向があるのです。また、大学などの高等教育では理系に進む女子 (いわゆる、リケジョ) が少ないことも問題視されるようになりました。

PISA は 15 歳を対象にした調査を実施するのですが、その結果をジェンダーの視点で見ると、以下のようなことがわかります。

まず、男子の成績が良くないことです。PISA は、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの三分野の調査を行います。三分野すべてが平均以下の成績であった者は男子 14%、女子 9%でした。背景には男女の行動の差があると考えられています。男子は家庭学習時間が女子より週平均で 1 時間少なく、学校外ではビデオゲームに多くの時間を費やします。その代わりに、女子に比べて読書時間が少ないのです。

つぎに、高得点者に限ってみると、男子の方が数学的リテラシーの結果が明らかに良いのです。女子は、数学や理科の領域に苦手意識をもち自信不足になっています。とくに、「科学的に考える」ことが必要な問題の成績が良くありません。この「科学的に考える」能力の男女差は自信に由来するそうです。自信のある生徒は、自分に「失敗する」ことを許し、失敗する自由を使って試行錯誤して問題解決に挑むことができるのです。

将来、工学やコンピューター関係の仕事に就きたいと考える者の割合は、女子では 5% に満たないのですが、逆に男子ではずっと高くなっています。親は、息子にも娘にも学業や将来の進路について同じサポートができるはずですが、実際にはそうではありません。調査したすべての国で、親は、娘よりも息子に対して、科学・テクノロジー・工学・数学などの分野で働くことを期待しています。

報告書は、PISA 調査は学力のジェンダー差が生まれつきのものではないことを示しており、女子も男子も、その持つ能力を全面的に発揮して社会の経済成長と幸福に貢献できるように、親、教師、政策立案者をはじめ社会の一層の努力が必要であると結んでいます。

PISA 調査の結果は、世界的な成績順位を競って一喜一憂する以上に、このように現代の教育課題を深く考える材料となっています。皆さんの感想はいかがでしょう。

食育便り

「日本の食育、うち (家庭) の食育」

西九州大学 健康福祉学部 健康栄養学科 講師 三隅 幸子

すべての国民が心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるようにするために、わが国では、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる「食育」を推進しています (食育基本法)。近年ではとくに、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、食の海外への依存、伝統的な食文化の危機、食の安全など、様々な問題から食育の重要性は増えています。

今回は日本の食育推進計画をとっても簡単にご紹介します。みなさんのご家庭でどのように食に向かい合うのか考えていただく参考にさせていただきたいと思います。

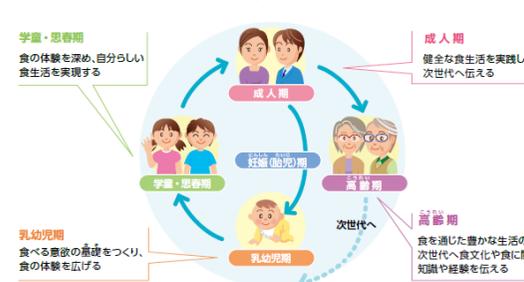
「食育」は子どもだけに必要なものではない

第 2 次食育推進計画 (H23 年～27 年まで) では、3 つの重点課題が挙げられています。

- ①生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育の推進
- ②生活習慣病の予防および改善につながる食育の推進
- ③家庭における共食を通じた子どもへの食育の推進

つまり、子どもから高齢者まで絶え間なく、生活習慣病の予防および改善につながる食育を、とくに家庭での共食を通じてやりましょう！ということです。家庭での食育が期待されているのです。

それぞれのライフステージで大切にしたい食育の取組



「食育」で育てたい食べる力

しかしながらいきなりご家庭で食育を、と言われても困ってしまいます。上の図は、内閣府が作成している「食育ガイド」から抜粋したものです。年代ごとに取り組みは異なりますが、基本的に目指している食育は同じです。右の図を抜き出してみますと、○感謝の心、○一緒に食べたい人がいる (社会性)、○心と身体の健康を維持できる、○食事の重要性や楽しさを理解する、○食べ物の選択や食事づくりができる○日本の食文化を伝えることができる、と 6 つの事項が挙げられています。これらを実践すると自然に「食べる力」が身につくこととなります。

みなさんの食卓の風景を振り返り、6 つの事項と照らし合わせてください。どの項目が弱く、どれがあなたのご家庭の強みでしょうか？ 今ある食卓の風景は確実に他の家族へ引き継がれています。それが子どもであれば一生涯、引き継がれるかもしれません。生涯行う「食育」、この機会にぜひ考えてみてください。

(引用：「食育ガイド」内閣府作成、その他内閣府 HP より)